

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月30日

【評価実施概要】

事業所番号	1272100502
法人名	株式会社 ヘルスケアナラシノ
事業所名	グループホーム津田沼
所在地	千葉県習志野市藤崎4-10-8 (電話) 047-472-5250

評価機関名	特定非営利活動法人 コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成21年3月25日	評価確定日	5月11日

【情報提供票より】(20年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	25 人	常勤	9人, 非常勤 16人, 常勤換算 13,6 人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺 造り
	2 階建ての2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 ~ 60,000 円	その他の経費(月額)	水光熱費20,000円・管理費20,000円・その他実費	
敷 金	有 (315,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (105,000円)	有りの場合 償却の有無	有 (期間:24ヶ月)	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	200 円
	または1日当たり		1,500 円	

(4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	6 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.8 歳	最低	72 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	津田沼中央病院、戸張クリニック、医療法人 郁栄会
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑豊かな、四季を肌で感じることのできる閑静な住宅街の中に立地している。1階にはデイサービスをはじめ各種介護保険事業所が併設され、2階には2ユニットのホームが左右対面式の造りになっている。広い芝生の庭には野外テーブルセットや、家庭菜園があり、随所にこだわりの設計・工夫が施されたホームで入居者は快適に生活している。また、1階のデイサービスとの交流もある。入居者一人ひとりが穏やかで、生き生きとした表情で食事や交流を楽しんでいる状況が見受けられた。職員は笑顔と優しさで、ケアの質の向上に取り組んでいる。また、複数の看護師資格を持つ職員も入居者の対応にあたることで、家族に安心と信頼を与えている。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域とのつきあいに關しては、家族からの協力もありホームの行事に地域住民を招き盛会であった。今後も地域との交流促進への取り組みを検討している。改善項目であった地域とのつきあいをさらに進めるためにも、地域密着型サービスとしての理念、あるいはモットー等の明示があるとよいと思われる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価の意義や目的は周知しているが、職員が作成に直接関わっていない。評価が職員の気づきのチャンスと捉え、サービスの改善に繋げていけるように、全職員がそれぞれの視点で自己評価を行うことが期待される。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議はガイドラインに沿って概ね2ヶ月に1回開催している。メンバー構成は入居者家族代表・地域包括支援センター代表・介護相談員・民生委員・老人会代表・町会長代理に加えて、幅広い参加者による意見を求めて警察署・消防署にも参加を働きかけている。会議では、ホームの状況報告・意見交換を行い、「グループホーム津田沼」への理解を得ている。また、現状の課題を検討し問題解決につなげている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時には積極的に声かけをし、家族の話を聞くように努めている。玄関に意見箱を設置し、家族の意見、苦情、不満等を表せる場を設けているが、今までに投書は寄せられていない。家族会では、家族が発言しやすい雰囲気になるように、職員抜きでの話し合いの時間を設けている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の小学校の運動会見学や、お祭り、敬老会などの地域行事に積極的に参加している。ホームの納涼祭・パザーには近隣の住民に参加を呼びかけ、入居者と地域住民が一緒に楽しみ、交流ができるようにしている。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「お元気で明るく楽しく心豊かに過ごしましょう」という分かりやすいホームの理念で、入居者の生き生きとした生活をもたらす様に心がけている。しかし、地域の中で入居者が暮らし続けられるためのホームのサービスの役割が、理念の中に明示される、あるいはモットーが作られるまでにはいたっていない。		入居者が地域の中で生活することを支える地域密着型のサービスの役割が理念の中に明示されるか、モットーがあると良いと思われる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員共有の理念は、目につきやすい玄関やフロアなどに掲示して日々周知を図っており、職員の行動やホームの雰囲気から理念が浸透していることが伺えた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の小学生の運動会見学や、お祭り、敬老会などの地域行事に積極的に参加している。また、ホームの納涼祭には案内書を地域に配布し、多くの人たちと交流することができた。今後も地域との交流促進を検討している。		
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的を職員に周知しているが、職員一人ひとりが自己評価に参加するまでにはいたっていない。		職員がそれぞれの視点で自己評価結果を持ち寄り、その集約のもとに自己評価及び外部評価の結果は、改善課題として、職員全員で取り組み、更なる質の向上に努めることが望まれる。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催され、地域包括支援センター代表・介護相談員・民生委員・老人会や町会長等の参加があり、更に警察や消防署の代表者にも参加を働きかけている。会議では、入居者やサービスの現状を報告・検討し、内容は議事録に記載している。また現状の課題を取り上げ、問題解決につなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護相談員がホームを毎月訪問し交流を図っている。また、施設・介護サービスなどを主体に情報を交換すると共に、市主催の介護サービス向上連絡会に年4回積極的に参加し、質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「けんこう便り」に入居者ごとの状況を担当職員が記載し、金銭収支報告・請求書と共に家族に送付している。また、ホームの広報誌「あじさい便り」では、2ヶ月に1回、ホームや併設施設と合同の行事報告をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は面会に来た家族に気さくに話しかけ、率直な話が出来るような雰囲気づくりを心がけている。また、玄関に意見箱を設置している。家族会では職員が席を外し、家族だけの時間も持てるようにしており、出された意見を運営に反映させるように努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員や入居者は自由にユニット間を往来している。職員は両ユニットの入居者のことを把握し、入居者・家族の信頼を得て馴染みの関係を築くようにしている。職員の離職などにより、やむを得ず職員が入れ替わる場合には、ベテラン職員が新人職員につき入居者に混乱が起きないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部・内部研修を問わず、年間を通して研修スケジュールが作成され、職員は管理者の声かけで参加している。参加者は研修報告書を作成して全員に回覧し、ミーティングで他職員に報告している。今後は職員各自の経験や力量に応じた研修の機会を作っていく予定である。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の介護サービス向上連絡会などで、意見交換や交流・見学会の機会を積極的に持って、ケアサービスの改善や質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者・家族の見学は随時受け付けている。入居者が安心して入居できるように体験入居(日中1日～半日)が可能である。また、運営母体併設のデイサービス・有料ホームを利用してもらうなど、ホームに馴染めるように、対応を個々に工夫して、住み替えの影響が出ないように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は「元気で、明るく、楽しく心豊かに過ごしましょう」の理念に基き、入居者と共に過ごすよう心がけている。入居者の日々の行動から学ぶことも多く、共に支えあう関係作りを築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居の際には家庭訪問をし、それまでの生活を把握した上で今後の生活について話し合うように心がけている。入居後は新しい発見を敏感に汲み取れるように、入居者と1対1でじっくり話を聞く時間を多く取るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族・職員・主治医等の意見を取り入れた介護計画が作られている。本人の状況を更に詳しく分析し、介護計画に反映させる為に、アセスメントにセンター方式を部分的に取り入れ始めた。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、定期的に、また、必要に応じて行われている。介護計画書の中にモニタリングの欄があり、入居者の状況や計画の評価が記載されており、介護計画の見直しがスムーズに行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	1フロアーに2ユニットがあるということで、職員も入居者も自由な行き来をしており、活動範囲を広げている。1階のデイサービスや社内のグループホームとの交流もあり、人との関わりが多く持てる工夫がされている。週に1回はデイサービスの浴室を「大浴場」として利用し、入居者の楽しみとなっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診する病院は本人・家族の希望で決められている。看護師資格を持つ職員が複数いるので、体調の変化への適切なアドバイスが素早くされ、医師との連携もスムーズに行われている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の段階から話はしており、ターミナルケアに関する「ご意思の確認書」も提出してもらっている。過去にも実績があるので職員たちも重度化や終末期への対応を十分理解しており、全員で共有して取り組んでいく方針である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介助の際に大きな声で注意をしないなど、入居者の尊厳を大切にしている。個人情報の取り扱いには十分配慮し、職員に周知徹底している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	夜9時が消灯だが、自室ではテレビをみるなど自由に過ごすことができる。居室での喫煙はできないが、飲酒は楽しめる。家族が来訪したときに犬と触れ合ったり、他の入居者と一緒に会話に加わったり、と入居者のペースや楽しみを尊重している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間が楽しいものになる雰囲気をつくっている。彩りや食べやすい大きさや味付け、持ちやすい食器等に配慮し、残さず食べられるよう日々取り組んでいる。入居者が安全に食事の準備や片付けができるよう、随所に工夫をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回を原則としているが、他の日も状況に応じて対応している。2時間近く浴室で過ごす人もいるなど、自宅で過ごしていたときの楽しみ方を尊重するようにしている。週1回はデイの浴室を利用し、気分転換もはかっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	手芸・カラオケ・ゲームなど、楽しい時間を持てる支援を心がけており、化粧品や洋服の買い物など、一人ひとりのこだわりや張り合いを尊重している。食後の食器洗いなど、それぞれの役割を楽しみにしている人もいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	家族との毎日の散歩を楽しみにしている人もおり、近隣に散歩に適した場所も多いので、1日1回は出かけるように支援している。買い物同行なども希望を応じて行われている。広い庭の一部を利用した菜園も楽しみの一つである。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1フロアに2ユニットあり、多くの職員が目で見守りがされているため、鍵をかけないケアが実践されている。1階のデイサービスで出入りが多い時間帯は、安全のため職員の見守りを強化するようにしている。すぐ近くの交番との連携はできているが、今年は警察署との連携も図っていく予定である。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練も年2回、消防署と連携をとりながら行われており、マニュアルも整っている。夜間の避難には周囲の協力が不可欠なので、外部の人に入居者の歩行レベルが分かるように示すテープ(救護区分)を居室ドアの上に貼ってある。しかし、地域の人々の協力を得られる状況にはいたっていない。		各居室の救護区分の表示が災害時に活かされるように、地域の人々の協力への働きかけと救護区分の意義等が周知されることが必要と思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量はチェック表を作成して把握している。適度な運動や入浴などは心地よい睡眠を導き、それが食欲にもつながるので、生活全体でみていくようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの天井は太陽光が直接とりこまれているので非常に明るい。入居者の作品などもホームのいたるところに飾られ、家庭的な温かみのある空間になっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具や思い出の品々・写真などの持込が可能であり、くつろげる空間になっている。ベランダがあるので、非常のときの通路になるが、普段は入居者が洗濯物を干したりしている。		